令和6年度

全国学力・学習状況調査

松伏町分析結果

松伏町教育委員会

1．調査の概要

（１）調査の目的

〇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

〇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

〇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査の対象

小学校６年生、中学校３年生

（３）調査の内容

①教科に関する調査

- 小学校調査：国語、算数
- 中学校調査：国語、数学

②質問紙調査

- 児童生徒に対する調査
- 学校に対する調査

（４）調査の方式

悉皆調査

（５）調査の期日

令和６年４月１８日

（６）調査を実施した学校

	対象学校数	学校数（実施率）
小学校	３校	3校（１００%）
中学校	2校	2校（１００%）

令和６年度及び過去の全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料については、下記の国立教育政策研究所のウェブサイトにてご覧いただけます。
（国立教育研究政策研究所リンク）

国立教育研究政策研究所　教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

NIER 国立教育政策研究所

２．教科に関する調査結果

≪　概要について　≫

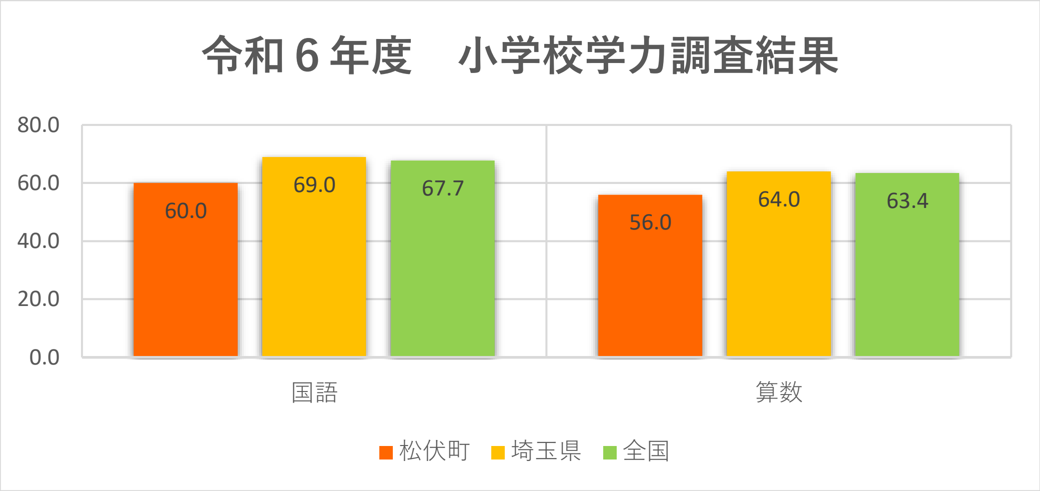
（１）埼玉県との比較について

小学校：国語・算数ともに埼玉県平均を下回っている。
　　　　【国語】－9.0（%）　　【算数】－8.0（%）
中学校：国語は、同等であり、数学は、埼玉県平均を下回っている。
　　　　【国語】±0.0（%）　　【数学】－2.0（%）

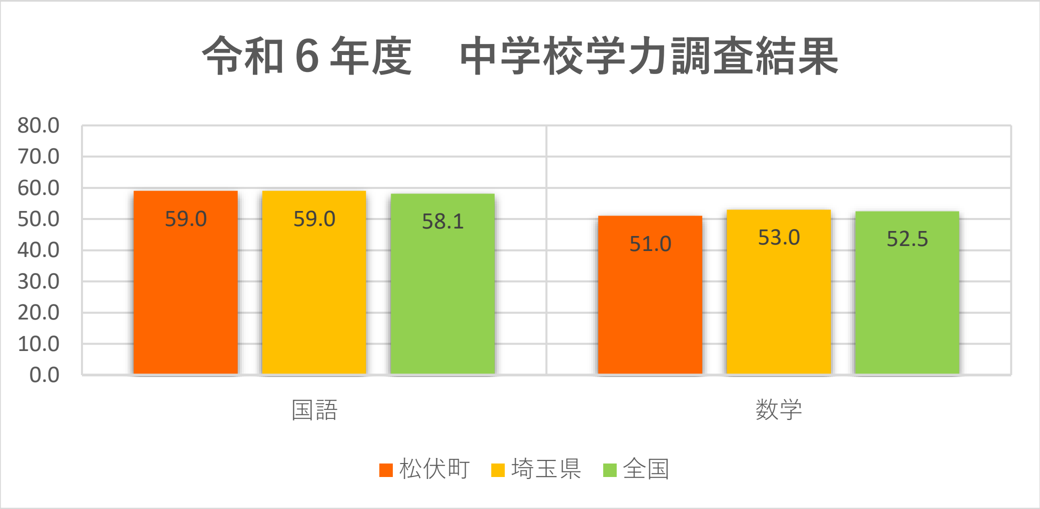
（２）全国との比較について

小学校：国語・算数ともに全国平均を下回っている。
　　　　【国語】－7.7（%）　　【算数】－7.4（%）
中学校：国語は、上回っており、数学は、全国平均を下回っている。
　　　　【国語】＋0.9（%）　　【数学】－1.5（%）

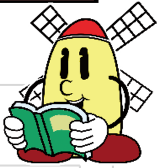
（３）小学校６年生平均正答率（%）



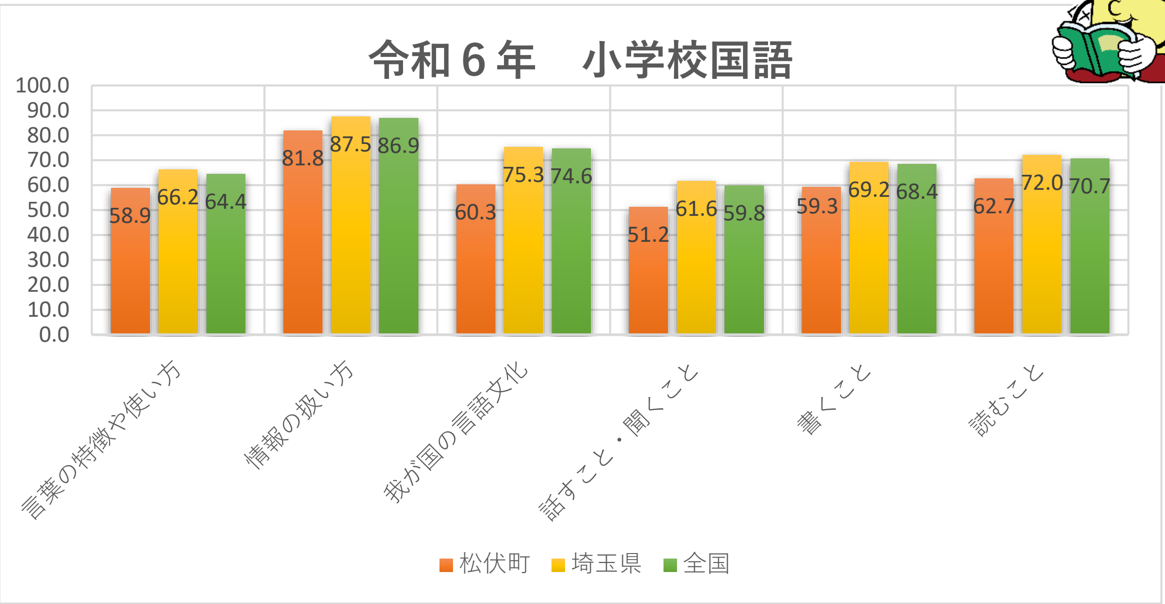
（４）中学校3年生平均正答率（%）



3．教科に関する調査結果（小　国語）



≪　小学校国語について　≫（%）



（１）領域別平均正答率の結果について

全領域で全国及び埼玉県の平均を下回る結果となりました。知識及び技能の「我が国の言語文化に関する事項」の領域に関しては、埼玉県・全国の平均正答率と比べ14 %以上下回る結果となりました。

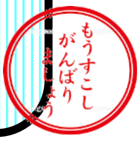
（２）設問別平均正答率の結果と課題等について

漢字に関する設問は、他の設問と比較すると県や全国の差が小さい結果となりました。

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題
【設問２－三　言葉の特徴や使い方に関する事項】
で全国の平均に迫りました。

更なる向上を目指して

日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる問題
【設問３－四　我が国の言語文化に関する事項】



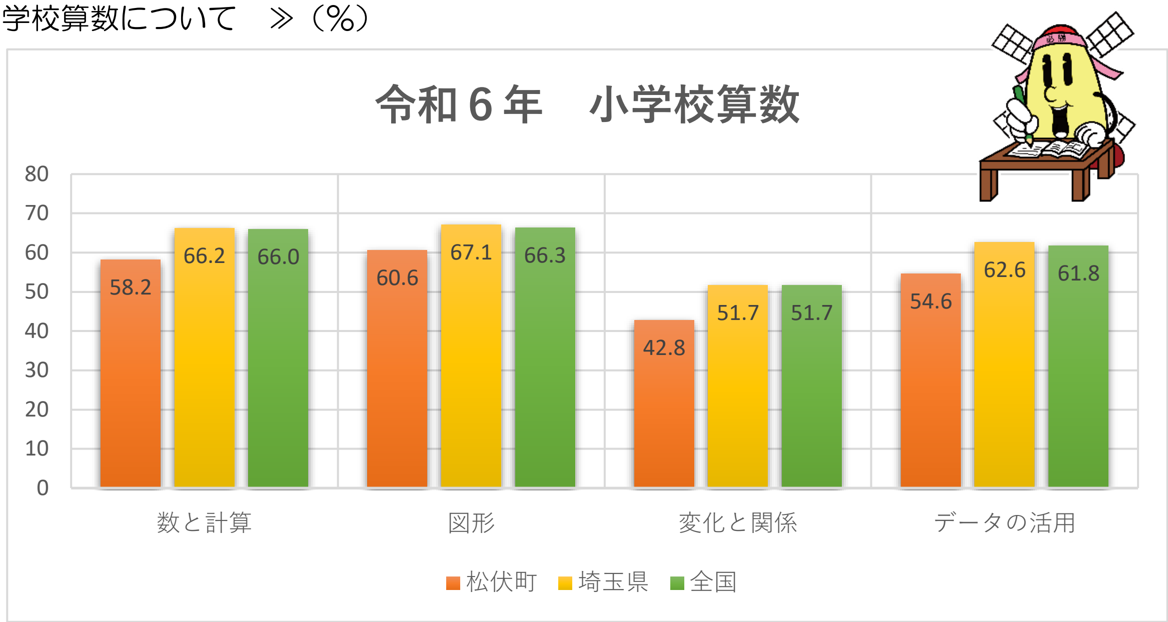
指導のポイント

①読書活動を振り返る場面では、これまでの読書活動を振り返り、読書の意味を考えることができるように指導すること必要です。
②児童自身が読書の価値に気付くことができるようにすることが大切です。年間の「読書の記録」を生かして、どのような本や文章を読んできたのか、読書がどのように自分の考えを広げるのに役立ったのかなど、交流する場を工夫し、児童同士で気付きを引き出せるようにすると効果的です。

【参考】令和６年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例
国立教育政策研究所教育課程研究センター

３．教科に関する調査結果（小　算数）

≪　小学校算数について　≫（%）



（１）領域別平均正答率の結果について

全領域で全国及び埼玉県の平均を下回る結果となりました。「変化と関係」の領域に関しては、全国の平均正答率と比べ 8.9 %下回る結果となりました。

（２）設問別平均正答率の結果と課題等について

全１６問中、１問が全国平均正答率を上回っています。

直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題
【設問３（１）図形】
で全国及び埼玉県の平均を上回りました。

更なる向上を目指して

問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかを問題
【設問１（１）数と計算】

指導のポイント

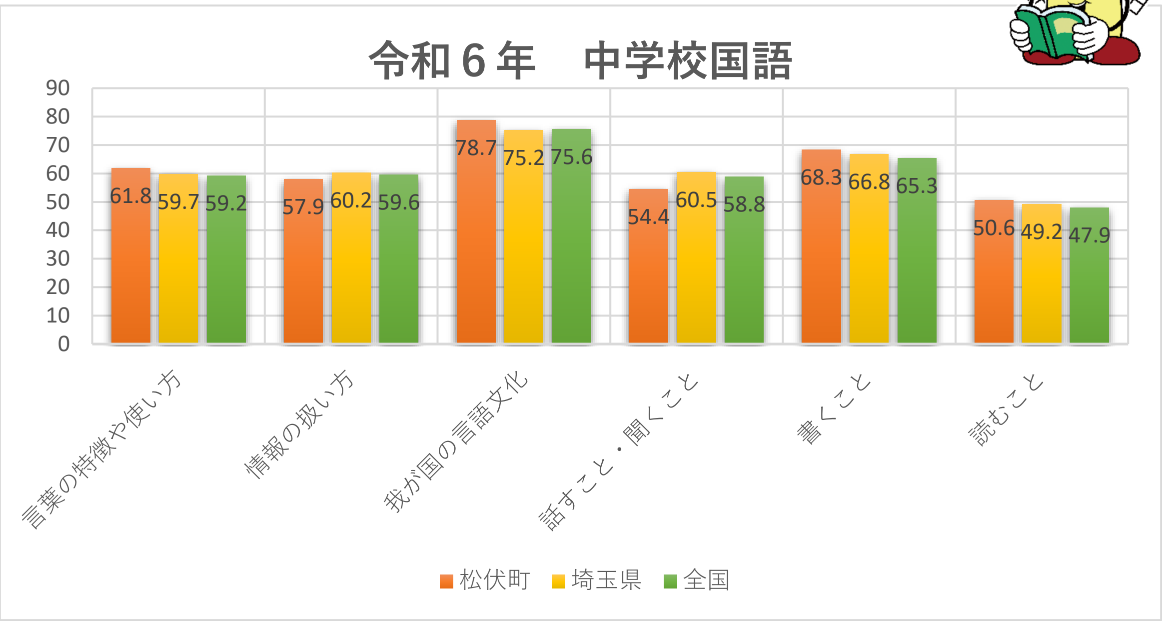
①問題場面を図に表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにすることが大切です。数量の関係をつかみにくい問題の解決においては、問題場面を図に表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにすることが重要です。

②図などを用いて、数量の関係を整理する活動では、問題を読み、「多い」のだから加法、「少ない」のだから減法、のように形式的に立式するのではなく、問題場面を図に表し、その図と問題文のそれぞれの数量の関係を比較し、捉えることができるようにすることが大切です。

【参考】令和６年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例
国立教育政策研究所教育課程研究センター

3．教科に関する調査結果（中　国語）

≪　中学校国語について　≫（％）



（１）領域別平均正答率の結果について

４つの領域で全国及び埼玉県の平均を上回る結果となりました。「書くこと」の領域に関しては、全国平均と比べ 3.0 ％上回る結果となりました。

（２）設問別平均正答率の結果と課題等について

全１５問中、９問が全国平均正答率を上回っています。

目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題
【設問２－四　読むこと】

表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題
【設問３－四　書くこと】
等で全国の平均を上回りました。

更なる向上を目指して

必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題
【設問１－一　話すこと・聞くこと】

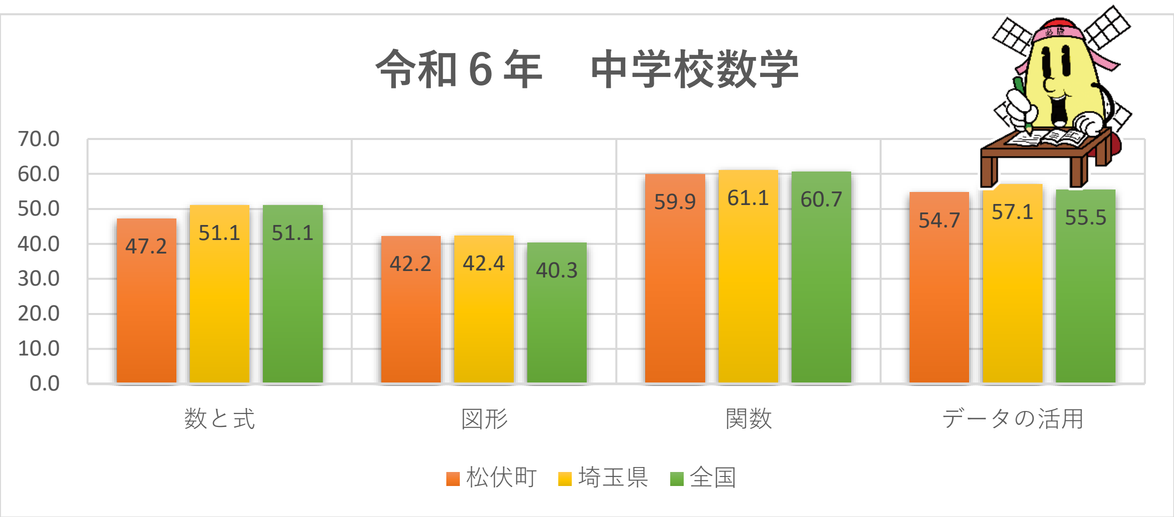
指導のポイント

①話の内容を正確に理解するために、質問をする際には、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することが重要です。
②実際に話合いをする学習では、目的や状況に応じた質問になっているかを検討したり、振り返ったりするような学習活動を位置付けることが考えられます。その際、質問の意図が明確であったか、質問の意図が聞き手に伝わったか、質問が話合いの話題に沿っていたかなどについて、質問を具体的に取り上げて検討できるように指導することが大切です。

【参考】令和６年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例　国立教育政策研究所教育課程研究センター

3．教科に関する調査結果（中　数学）

≪　中学校数学について　≫（%）



（１）領域別平均正答率の結果について

図形の領域では、全国平均を上回る結果となりました。全国平均を下回る領域においても、関数・データの活用では、差が1.0未満となっており、ほぼ同等となっています。

（２）設問別平均正答率の結果と課題等について

全１６問中、４問が埼玉県、７問が全国平均正答率を上回っています。

一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる問題
【設問４　関数】
筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題
【設問９（１）　図形】

更なる向上を目指して

等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる問題
【設問２　数と式】

指導のポイント

①方程式を解いたり、二元一次方程式について、関数関係を表す式とみて考察したりする場面では、ある文字について解くことの意味を理解し、等式を変形できることが大切です。
②等式の性質などに基づき、等式を変形できるようにするためには、ある文字について解くことの意味を理解し、等式の性質などの根拠に基づいて等式を変形できるように指導することが重要です。

【参考】令和６年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例　国立教育政策研究所教育課程研究センター